

## 視点(747) ボルダール市がロハスのメッカとなったメカニズムとは!!

ロハス(LOHAS=Lifestyles of Health & Sustainability・健康と地球の持続可能性を志向するライフスタイル)のメッカは「ボルダール市」(コロラド州ボルダール市)です。弊社の第29回海外流通視察ツアー(2007年4月)でロハスの研究のためボルダールに行き、ロハス関係者(ロハスの生みの親・フラン克蘭ペ氏)や行政の方(ボルダール市の開発担当者)やロハス企業の方々(ファルマカやワイルドオーツ等)のお話を聞き、勉強をしました。

では、何故にボルダール市がロハスのメッカになったのかをメカニズム的に説明します(六車流:流通理論)。

ボルダール市がロハスのメッカになった第1の理由

コロラド州ボルダール市はロッキー山脈の麓、海拔1,600mの地点に位置し、豊かな自然のある高原都市です。このボルダール市が持つ地域固有の特性が、ロハスという自然と人間に優しい持続可能なライフスタイルとの適合が可能となりました。

1960年代にヒッピーがこのボルダール市に住みつき始め、自給自足の生活を始めました。ヒッピーとは、原始自給自足生活とは異なる思想自給自足生活者(反資本主義、反工業主義、反戦争等の現在の社会体制に反発して、豊かな物質社会でありながら自然と一体化して自給自足生活を行う人々)であり、彼らにとってボルダール市は最適な場所でした。今、ボルダール市は全米で一番暮らしやすい都市になっています。また、健康に一番良い都市でもあります。このボルダール市が持つ地域固有の特性と、ヒッピーの反体制の思想が融合することにより、思想と自然が融合し、ボルダール市がロハスのメッカになる第一歩となりました。

ボルダール市がロハスのメッカになった第2の理由

自然に恵まれたボルダール市に、コロラド大学ボルダール校(ノーベル賞受賞4名)や企業の研究機関が進出して、学歴の高い人々や所得の高い人々が住みつき、ロハス思想のターゲットが育っていきました。また、ボルダール市は昔から伝統的に産業を育て応援する土壌があり、この市民性が、ロハス企業の発展にも結びつきました。ボルダール市はロハス志向の三大ターゲットである高学歴者、高所得者、自然・アウトドア愛好者の比率が著しく高くなっています。

ボルダール市がロハスのメッカになった第3の理由

自然に恵まれ、思想自給自足生活者のヒッピーが住みつき、大学や研究機関が進出し、産業を育成し応援するという土壌の中で、ロハスの三大ターゲットである高学歴者、高所得者、自然・アウトドア愛好者が集まり住むようになり、ロハスのメッカとしての背景は全て勢揃いしたことになりました。後は、ロハスとしての成果である持続可能な経済を創出する企業が出現することです。ロハスは単なる思想ではなく、自然と地球さらには人間の肉体的・精神的に優しい実践経済であるため、思想を戦略発想で実践化する企業が必要です。ボルダール市発のロハス企業は、ワイルドオーツ(自然・健康食のSM)、バイタミカテッジ(病気にならない食品とサプリメントのSM)、ファルマカ(病気になる前に行き病気にならないようにする薬局)、ガイアム(ロハス商品の通信販売の企業)等があり、全米のロハスのリーダー的役割を担っています。

このように、ロハスは反体制思想から始まりましたが、ロハスの思想が社会的に認知され、多くの人々に支持されるためには、反体制思想が持つ「長所」を現体制の現代的システムの中に融合させることが必要です。すなわち、20世紀は大量生産・大量消費による豊かな社会を構築しましたが、地球や自然、動物、人間にとって決して優しい世紀ではありませんでした。現代社会の利便性や人間独自の文化を認めつつ、20世紀の課題と反体制思想の長所が融合した概念が、ロハスと言うことができます。正に、「産業の世紀」(20世紀)から「環境の世紀」(21世紀)への概念的かつ実践的移行です。

それゆえに、現実の人間社会の仕組みを否定するのではなく、人間社会が確立した現社会・体制を維持しつつ、できるだけ地球や自然さらには人間の肉体的・精神的な面に負担をかけない仕組みがロハスです。いづれにしても、一步一步、ロハスを具体的に進めることが持続可能な社会をつくるために必要です。